FCデフォルト　-トーマス・ローソン監督による復興クラブ-

古明地悠馬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＦＣデフォルト　―トーマス・ローソン監督による復興クラブ―

【Ｎコード】
Ｎ３１６２Ｐ

【作者名】
古明地悠馬

【あらすじ】
１９９９年に創立されたクラブチーム・『ＦＣデフォルト』。かつての栄光は消え去り、『完全なる低迷』時代が続いていた。今シーズンからトーマス・ローソンが監督に就任し、「最愛のＦＣデフォルトは、必ずトロフィーを持ち帰る」と発言。苦悩のＦＣデフォルトを、そしてホームタウンの『デフォルトシティ』は、また黄金時代として輝けるのだろうか・・・。ＰＥＳリーグ、そうたやすい相手ではない。

2010－11　Division　2　#01

あの時は皆、輝いていた。
その輝きは、いつか消える。
その輝きを、また夢見るくすんだダイヤモンドは今――――

――――――――――――――――――――――――

１９９９年、デフォルトシティに初めてのサッカークラブ、『ＦＣデフォルト』が創立。

ＦＣデフォルトは、初年度にＦＷにローソンとキティのツートップを抱え、数々の熱闘を繰り返してきた。そして２００２年に初のＤ１に昇格。そこでも輝いていた。何もかもが。
もともと田舎町だったデフォルトシティは発展を遂げ、現在では中都市までになるほど。それくらい、人々は熱狂していた。

だが、ここから『完全なる低迷（パーフェクト・スラギッシュ）』に陥ってしまう。

２００２年１２月　チームの司令塔、ＭＦ・『アンドレア・ダゴスティーノ』が交通事故に巻き込まれる。幸い命に別状はなかったものの、とても歩けるような状態ではなかった。引退を余儀なくされたのだ。
現在ではリハビリを続け、チームのヘッドコーチとなったのだが・・・

その次のシーズン、チーム初の降格。そして次第に、ファンは減ってゆく。そして同時に、デフォルトシティは過疎化していった。

２０１０年2月、いまだにＤ２でくすぶっているＦＣデフォルトに、新監督である元ＦＣデフォルトのＦＷ、『トーマス・ローソン』を迎え入れた。
ローソンは記者会見の時、こう発言した。
『私はこの街を滅ぼしたりはしない。このチームを滅ぼしたりはしない。自分も一人の戦士として、堂々と戦ってゆく』

『――最愛のＦＣデフォルトは、必ずトロフィーをここに持ち帰る。それが天から与えられた私への命令（ミッション）だ』

――ＰＥＳリーグ通信　２０１０年2月２２日付

――――――――――――――――――――――――

２０１０年　３月　１２日　午前３時５５分　デフォルト・スタディオン　観客収容数　１６００３人
ＰＥＳ（Ｐｒｏ　Ｓｏｃｃｅｒ　Ｅｖｏｌｕｔｉｏｎ）リーグ　第１節
ＦＣデフォルト（昨シーズン１９位・最下位）　ｖｓ　ワンデンジン　タウン（昨シーズン　Ｄ１　１７位・降格組）

――ホームで開幕戦を迎えるのは、二年ぶりだ。というか、毎年交互にやってくるものなのだが。
ＦＣデフォルトのキャプテンである、ＦＷ・『ルシェル・ホドリゴ・カストロ』は、どうでもいいそんなことを思っていた。

そして、ため息を吐く。だるいんじゃない。むしろ、動いていたいくらい。相手が元Ｄ１――――という事でもない。

客が来ない。

うん、２００１年、２１世紀の初っ端から『完全なる低迷』とまで言われ、年々、毎試合うちのサポーターが減っていっている。さて、今日の観客動員数は・・・

うげ、４０３９人。

もしかしてこれ、歴代最低数か？　たぶんそうだろう。こんな数字、見た事なかった。

「なに、そう落ち込むな」

不意に後ろから言われた。

「監督・・・」

「そりゃそうだ、一年で変わる事なんでそうそうない。これからじっくりと、ステップアップすればいい。」

「急ぐな。焦りは弱い証拠だ」

ドキリとした。ちっとそれは言い過ぎなんじゃないのか・・・まあいいや、この人昔からそうだし。というか、自分でもそれはちょうどいい気がしてきた。

「さあ、入場だ」

――――――――――――――――――――――――――――

ＰＥＳ公式ソング――今年は、『Ｓｐｉｒａｌ　２００５』が採用されていた。何故？――が流れる中、選手たちがフィールドに集まる。ＢＧＭのテンションの甲斐あってか、人数以上の大声援・・・とまではいかないが、とりあえず人数以上の盛り上がりを見せていた。

よし。

今年ははＦＣデフォルトのキックオフから。

２０１０－１１シーズンが、高々と響き渡る笛によって、始まった。

今年は、どんな運命なんだろうか。

とりあえず、勝利の女神に頼んでおくか。１００万円ほど、持って行って。

２０１０－１１　Ｄｉｖｉｓｉｏｎ　２　＃０２

俺の脚は心配するな。自分の心配をしろ。
あと、ＦＣデフォルトを応援してくれ。頼んだ。
――――アンドレア・ダゴスティーノ
交通事故についての記者会見にて

――――――――――――――――――――――――

前半６分が経過した。最初のチャンスが訪れる――――のだが、そこできっちりと決められないのはもうお約束と化していた。が、

背番号６、白いヘアバンドが似合うＭＦ・『ジャン・ミカエル・エスピマス』のロングフィードが事実上カウンターになり、そこに背番号１１、ＦＷの『エーセル・オルダス』がトラップする。

――――大体、２０ｍくらいか。

そこからオルダスはドリブルを仕掛ける。よし、一人抜いたぞ。

「オルダスこっちだ！」

背番号８、ＭＦの『ヒメレス・アロンソ』が逆サイドにいる。なるほど、フリーだ。オルダスは右サイドから大きくサイドチェンジ。これが――――あー、トラップミスだ。

――――やっぱお約束か。

「大丈夫だ大丈夫！　”いつものことだ”！」

「・・・それ言っちゃまずいっすよそれ！？」

たく・・・監督もそう思ってるだろうなー・・・。

――――――――――――――――――――――――

オルダスの予想は的中していた。

「たく・・・」

正直な奴だ。と、オルダスと同じようなことを思っていた。だいたいあってた。

それでも、壁はこじ開けないと前が見えない。

「じっくりでもいい！　じっくりでもいいからとにかく押せ！　押さんとなにもないぞ！！」

――――――――――――――――――――――――

選手の耳にはばっちり届いていた。背番号６のＭＦ、『セルジュ・ヨウガ』は、サイドから積極的に上がろうとする。

試合が動いたのは、前半の１２分。

「だっ！？」

ヨウガが上がりすぎていたのだ。その結果、中盤の左サイドがぽっかりと空いてしまい、そこに選手が走りこんでいる。

ヨウガは急いで戻るが、到底間に合わない。

そこに走りこんできたワンデンジンの２４番、ＦＷの『ハリス・ナジソン』がボールをキープしている。ＤＦ陣も必死に競り合おうとしているが、俊足のナジソンはそれを振り切ってしまう。

「あぁ・・・」

こうなれば、残るはＧＫ。背番号1、『レフ・イヴァロフ』が待ち構えていた。

「止めろ！　イヴァロフ！！」

ＤＦの司令塔、背番号2の『マハドゥ・ヴァレニ』が叫んだ。

「止める！」

だが、届かない。

電光掲示板に表示されていた『0』の文字がひとつ消え、それと同時に、堂々と『1』という文字を掲げていた。

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

前半２３分にまた1点を奪われていた。コーナーキックからダイビングヘッドであわされた。イヴァロフは反応できずに、ゴールネットを揺らした。

０　ー　2。

「・・・上がれ！　とにかく攻めろ！　そうでないと点は入らない

んだ！！」

ヴァレニが叫ぶ。絶対に1点でも取り返してみせる。ヴァレニは、そう思っていた。

マハドゥ・ヴァレニ、今年で３６歳を迎える彼にとって、今シーズンは大事な時なのだ。もう若くないその体は、もうピークを過ぎている。たとえ今でも抜群のスピードを持っているとしても、もうそろそろ潮時だろうと、今シーズン限りで引退を決めているのだ。

――――俺は特別な事が無い限り、もうこのユニフォームの袖は通せない。

――――最高のサッカー人生だっただろう・・・か？

１８歳でフランスのモナコからプロサッカーの世界に足を踏み入れ、リリアン・テュラムの背中を追っていた。カップ戦で初出場したヴァレニは、新人ながら積極的なプレイでボールを追い、追い続け、２０歳でリーグ戦にデビューした。当時はサイドハーフでプレイしていたが、思うように活躍の場を生かす事が出来なかった。

２３歳になったヴァレニ、モナコから『戦力外通告』を受ける。

わずかな移籍金でパリ・サンジェルマンに移籍したヴァレニは、そこで能力を開花させる。サイドバックに移り、持ち前のスピードを生かすプレイが目立ち、メディアの間では『国内の数少ない良質の若手サイドバック』と評された。

その後、バスティア、グニョンを渡り歩き、２８歳でＦＣデフォルトに移籍。

大きな怪我もなく、それなりに充実した現役人生だった。監督にもこのことは話している。引退後はコーチとしてこのチームに貢献するつもりだ。

最後のシーズン、笑って終わりたい。

ーーーーーーーーーーーーーー

前半３３分、ついに決定的なチャンスが訪れる。中央から上がるカストロにボールが渡る。相手はＧＫを含めて３人。ＤＦは二人。

ーーーこのまま中央突破・・・いや、右サイドだ！

「ヒメレス！」バックスピンを少々かけた浮き球を送る。ちゃんとトラップできたようだ。

トラップしたヒメレスはそのままサイドを駆け上がり、クロスを上げる。中には２人。カストロと、キャプテンマークを付けたＭＦ１０番『ペドロ・ミナンダ』がいた。そして相手ＤＦが１人。

３人が同時に競り合い、一番高さがあったのはミナンダだった！ミナンダのヘディングは、なんとＧＫの股下をくぐり、合計２バウンドしてゴールに入った。少しだけ、ネットを揺らしていた。

今シーズン、自チーム最初の得点は、ペドロ・ミナンダ。キャプテンにふさわしかった。

ーーーーーーーーーーーーーー

高々となる審判の笛。前半戦が終了していた。

なるほど、と監督はつぶやく。

中盤が割としっかりしている。ボールキープならこちらの方が上だろう。しかし、連携がバラバラだった。時折息が合うところもあると思えばある。しかし、チャンスを生かし切れていない。もう少し、攻撃の意識があればもう1点は取れて・・・いたのかもしれない。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3162p/

FCデフォルト　-トーマス・ローソン監督による復興クラブ-

2010年12月6日19時38分発行